

17. 自給飼料生産強化による肉用牛産地の育成

豊肥振興局 生産流通部

○白根英治、吉田能久、三代伸次、森田浩二

1. はじめに

県内有数の肉用牛繁殖地帯である竹田市では、以前から地域資源を活用した草地開発や牛舎等の基盤整備により肉用牛の振興を推進してきた。しかし、子牛価格の急激な下落や配合飼料等物材費の高止まりにより収益性は悪化し、かつて経験したことのない産地の危機に直面している。このような状況を打開するため、振興局が関係機関や生産者と共に取り組んできた種々の活動を紹介する。

2. 活動経過の概要

(1) 広域牧場の生産性向上の取り組み

①安価な資材活用による草地肥培管理及び土壌改良

- ・鶏糞焼却灰の利用による生産コストの低減

②各牧場間の共同利用機械の導入と活用

- ・既存草地の生産性向上
- ・簡易追播草地更新の実施

(2) 水田飼料作物の生産拡大と作業効率化の取り組み

- ・共同作業組織を中心とした飼料稲作付面積拡大
- ・面積拡大に対応した高性能機械の活用

(3) 担い手育成の取り組み

- ・若手後継者グループを対象にした経営感覚の醸成支援
- ・休日の取れる肉用牛経営を目指した定休型ヘルパー組織の設立

3. 期待される効果

(1) 自給飼料に立脚した肉用牛経営の確立

(2) 魅力のある肉用牛産地の育成

- ・県内最大肉用牛産地「豊肥市場の子牛」のブランド力アップ

(3) おおいた農山漁村活性化戦略2005の達成

- ・繁殖雌牛50頭以上飼養農家の確保・育成

4. 今後の方向

豊肥地域の資源である広域牧場や転作水田等を最大限活用し、自給飼料の生産・利用を引き続き積極的に推進する必要がある。平成の畜産危機を乗り越えるべく関係機関と一体となった支援・指導を今後とも強力に行う。